

単元（教材）名	2けたの数をかける計算（3年生） 全10時間		
本時のねらい	31×23の計算の仕方を考える活動を通して、乗数を何十といくつに分けてみれば既習の計算に帰着できることを式や図を用いて考えるとともに、31×23の筆算の仕方を理解することができる。（第3時）		
使用するコンテンツ	①デジタル教科書 ②電子黒板及びパワーポイント ③書画カメラ及び大型テレビ	メディア活用とその環境	《教室環境》普通教室 《情報機器》ノートPC(パワーポイント)、デジタルテレビ、電子黒板、書画カメラ

学習内容・活動の実際

情報機器活用における指導上の留意点

1 問題場面を把握し、学習課題を確認する。

1 こ31円のおかしを23こ買います。代金は何円でしょう。

- 31円の23倍した全体の代金を求める計算だからかけ算だ。式は31×23だ。
- これまでは「×何十」だったけれど、この場合でも今まで使った計算を使って、答えを出すことができるかな。

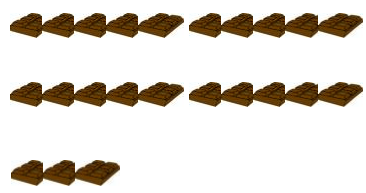
かける数が「何十いくつ」のかけ算の計算の仕方を考えよう。

①既習事項を確認する際の「デジタル教科書」の活用

本時の学習のねらいを達成するにあたり、「数を分けてみる」ことは、大切な考え方である。これは過去の学習でも用いたものであり、全児童が共通理解しておくべきものである。よって、3年上「かけ算のひっ算」P40の32×3の学習を大型テレビ上に映し出し、既習事項の確認を行う。

2 計算の仕方について、自分の考えを明らかにする。

31×23の計算は、  
23を20と3に分けます。  
31×20=620  
31×3=93  
620+93=713  
だから答えは713円です。



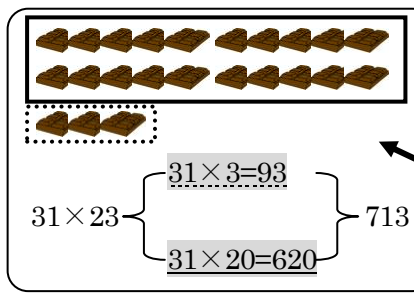
②演算決定の根拠を図と操作をもとにして理解する場面でのパワーポイントの活用

テープ図数直線を問題文の文脈に沿って表示し、数値を電子黒板に記入した上で児童とともに手で操作を加えた。これにより、児童の実態の差に関わらず全員が演算決定の根拠を視覚的にとらえながら理解できるようにする。

3 交流したことを振り返り、大切な考えについてまとめる。

- 23を20と3に分けて計算しても答えが正しいことは、図を見ても言えるな。
- 数を位ごとに分けてみれば、今まで学習した計算になおして、正しく答えを出すことができるんだ。


かける数が「何十いくつ」になっても、「何十」と「いくつ」にわけてみれば、今まで学習した計算を使って答えを求めることができる。



③児童の思考の共有を図るための、書画カメラおよび大型テレビの活用

式と図と関連づけて理解させるために、大型テレビで図を映し出しながら、23を20と3に分けることを図で囲ませる活動を行う。その際に、仲間の囲み方の共通点や相違点を明らかにしていくことで、思考の共有を図る。

4 筆算の仕方を教える。




5 次時の学習についての見通しをもつ。

- 今日学習した筆算を使って、どんな数になっても正しく計算できるようにするぞ。

《評価規準》

31×23の筆算の仕方とその意味を理解することができる。（知識・理解）